

腰痛疾患治療成績判定基準

術前・術後	病院名	記入者氏名	記入日
カルテ番号	患者氏名	手術名	
手術年月	性別	男・女	年齢 歳

I. 自覚症状 (9点) A. 腰痛に関して a. 全く腰痛はない 3 b. 時に軽い腰痛がある 2 c. 時に腰痛があるかあるいはある時にかなりの腰痛がある 1 d. 常に激しい腰痛がある 0 B. 下肢痛およびしびれに関して a. 全く下肢痛、しびれがない 3 b. 時に軽い下肢痛、しびれがある 2 c. 常に下肢痛、しびれがある 1 d. 常に激しい下肢痛、しびれがある 0 C. 歩行能力について a. 全く正常に歩行が可能 3 b. 500m以上歩行が可能であるが疼痛しびれ、脱力を感じる 2 c. 500m以下の歩行で疼痛、しびれ、脱力を感じ、歩けない 1 d. 常に激しい下肢痛、しびれがある 0 II. 他覚所見 (6点) A. SLR(tight hamstringを含む) a. 正常 2 b. 30° -70° 1 c. 30° 未満 0 B. 知覚 a. 正常 2 b. 軽度の知覚障害を有する 1 c. 明白な知覚障害を見とめる 0 注1: 軽度の知覚障害とは患者自身が認識しない程度のもの 注2: 明白な知覚障害とは知覚のいずれかの完全脱出、あるいはこれに近いもので患者自身も明らかに認識しているものをいう C. 筋力 a. 正常 2 b. 軽度の筋力低下 1 c. 明らかな筋力低下 0 注1: 被験筋を問わない 注2: 軽度の筋力低下とは筋力4程度を指す 注3: 明らかな筋力低下とは筋力3以下を指す 注4: 他覚所見が両側に認められる時はより障害度の強い側で判定する	IV. 膀胱機能 (-6点) a. 正常 0 b. 軽度の排尿困難(頻尿、排尿遅延、残尿感) -3 c. 高度の排尿困難 -6 注: 尿路疾患による排尿障害を除外する V. 満足度(参考) a. とてもよかった b. よかった c. わからない d. かわらない e. やらないほうがよかった VI. 精神状態の評価(参考) a. 愁訴の性質、部位程度など一定しない b. 痛みだけでなく機能的に説明困難な筋力低下、痛覚過敏、自立神経形変化を伴う c. 多くの病院あるいは多数科を受診する d. 手術に対する期待度が異常に高い e. 手術の既往がありその創部痛のみを異常に訴える f. 異常に長く(たとえば1年以上)仕事を休んでいる g. 職場、家庭生活で問題が多い h. 労災事故、交通事故に起因する i. 精神科での治療の既往 j. 医療訴訟の既往がある 備考
--	--

III. 日常生活動作 (14点)																																	
	(14点)																																
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">困難</td> <td style="text-align: center;">やや困難</td> <td style="text-align: center;">容易</td> </tr> <tr> <td>a. 寝返り動作</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td>b. 立ちあがり動作</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td>c. 洗顔動作</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td>d. 中腰姿勢または立位の持続</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td>e. 長時間座位(1時間位)</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td>f. 重量物の拳上または保持</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td>g. 歩行</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> </table>		困難	やや困難	容易	a. 寝返り動作	0	1	2	b. 立ちあがり動作	0	1	2	c. 洗顔動作	0	1	2	d. 中腰姿勢または立位の持続	0	1	2	e. 長時間座位(1時間位)	0	1	2	f. 重量物の拳上または保持	0	1	2	g. 歩行	0	1	2
	困難	やや困難	容易																														
a. 寝返り動作	0	1	2																														
b. 立ちあがり動作	0	1	2																														
c. 洗顔動作	0	1	2																														
d. 中腰姿勢または立位の持続	0	1	2																														
e. 長時間座位(1時間位)	0	1	2																														
f. 重量物の拳上または保持	0	1	2																														
g. 歩行	0	1	2																														

●判断基準

この判定基準は腰痛疾患全般(椎間板ヘルニア、分離すべり症、脊柱管狭窄症など)に応用可能な案として作成したものであるが、利用法として下記のようなものが考えられる。

1. 点数表示として扱う方法

各使用者の判断により

i) 自覚症状(9点)、他覚所見(6点)、日常生活動作(14点)の総合点(29点)により比較する方法。

たとえば総合点8→29点

ii) 各項目別に比較し使用する方法: すなわち自覚症状(9点)、他覚所見(6点)、日常生活動作(14点)の治療前後のそれぞれを比較する方法

たとえば自覚症状5→9点、他覚所見3→5点、日常生活動作7→13点

iii) 一つの症状を取り上げ治療前後で比較する方法 (ex. 脊柱管狭窄症では歩行能力だけを取り上げて比較する方法など)

iv) 改善指数あるいは改善率として表現する方法

a. 改善指数 = 治療後点数 - 治療前点数 / 治療前点数

b. 改善率 = 治療後点数 - 治療前点数 / 正常 - 治療前点数 × 100(%)

2. 膀胱機能は障害の見られる場合のみを用い単独評価を行うか、あるいは総合点として用いるが、総合点として用いる場合はマイナス点として評価を行う。

3. 判定時期は各使用者が判定時期を明確にして使用する

4. 満足度および精神状態の評価は参考として点数評価は行わない